

SUSTAINABILITY REPORT 2022



CHALLENGE

株式会社カナック

●表紙イラストに込めた想い

イラスト:製造部 岡田さん

Q. どんな思いを込めて描きましたか？

A. 今回はサステナビリティレポートと記されている通り、イラストも「サステナビリティ」をテーマにしています。地球に水を与えている人物が描かれていますが、これは人間の手で環境を再生させ、水を与えることで緑が元気になるように、地球を元気にしようという思いを表現しました。

Q. 作品を描く際に工夫した点や難しかった点は？

A. 工夫した点は、小さな子どもがみても理解できるようにすることと、背景色や線を淡い色調にしたことで、親しみやすいイラストにしました。難しかった点は、幅広い年齢層の人々にメッセージが伝わるようにすることです。

Q. 「CHALLENGE」に込められた想いは？

A. カナック一丸となって取り組む”挑戦”を表しています。

このイラストで、皆さんにカナックのサステナビリティに向けた挑戦が伝わると嬉しく思います。

●方針

目的

本報告書は、社内外の関係者にむけて、弊社の環境に関する活動・情報を発信・開示するために作成いたしました。

範囲

国内（本社、東海営業所、藤枝工場、東海工場、北海道工場）

期間

2022年度（2022年2月～2023年1月）

次回レポート予定日

2023年8月

作成

経営戦略室



●Table of contents

1. コーポレートメッセージ
2. 会社概要
3. 私たちの方針
4. 私たちに関わる気候変動リスク
5. カナックの化学技術で日本のものづくりに貢献
6. 温室効果ガス削減実施に向け SBT 認定取得
7. 減らすためのロードマップ
8. 温室効果ガス(CO₂)排出量報告
9. 第一期 SDGs 活動報告
10. カナック SDGs 宣言

●コーポレートメッセージ

1988年にカナックが設立され、2022年までの約34年間の間に、私たちの暮らしは大きな気候変動を肌で感じるほどに変化しました。この短期間でも感じる事が出来る地球環境の変化は、企業経営の脅威であり、今後大きなリスクをもたらすと考えています。だからこそ今、私たちは地球環境に目を向け、真摯に向きあい、変化に柔軟に対応することが求められています。

ものづくり大国日本といわれたように、「大量生産→大量流通→大量消費→大量破棄」は、日本の経済を活性化させる一方、環境問題を大きく、深刻なものにしてきました。これからは経済活動も社会・環境活動も、持続可能に保つように変えていかなければ、環境リスクを膨らます一方です。

地球温暖化の主な原因物質である二酸化炭素(CO₂)の排出は、化石燃料からエネルギーを得ている限り止めることはできません。地球を持続可能に保つためには、私たちが調達、製造、使用、廃棄のサプライチェーン全体でのCO₂排出量を知り、組織レベルで減らすことが重要と考えます。

また、気候変動に対するリスク対応策も検討しています。資源や原料の量・品質の低下に対処するために、原材料の使用量を削減しても処理価値を損なわない技術革新や原材料のリサイクル技術の推進、リサイクル材料の活用に取り組みます。また、エネルギーコストの上昇に対処するために、設備の省エネ化を奨励し、エネルギー効率向上の推進や、機械の保守点検と運用方法の見直しを行います。さらに、異常気象による自然災害に備え、拠点ごとに災害リスクを評価し、適切な対策を講じます。

企業経営において、環境への配慮は責務であり、私たちはSDGsを活用して社内での意識向上と行動を促進し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

私たちはカーボンニュートラル達成に向け、SBT(Science-Based Targets)を取得、2030年までのCO₂排出量に目標を定め、社内での取り組みを進め、今後は、「カナック処理」を通じて、金型や治工具の長寿命化を実現し、温室効果ガス(CO₂)排出量削減(カーボンニュートラル)と資源保護(サーキュラーエコノミー)という新しい価値を提供します。

「私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ、製造業に関わるすべての人や地域と、活力ある未来を探求し続けます。」とSDGs宣言し、事業を運営いたします。

●会社概要

- 会社名 株式会社カナック
- 代表者名 堀越 弘也
- 事業内容 表面処理(窒化処理)
- 所在地 藤枝市仮宿 1634-1
- 創立 1988年8月
- 資本金 1,100万円
- 社員数 60名(国内)

【拠点】

- 本社・藤枝工場



- 東海営業所・東海工場
- 北海道工場

● 私たちの方針

【サービス】

カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

【環境】

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内での CO2 排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

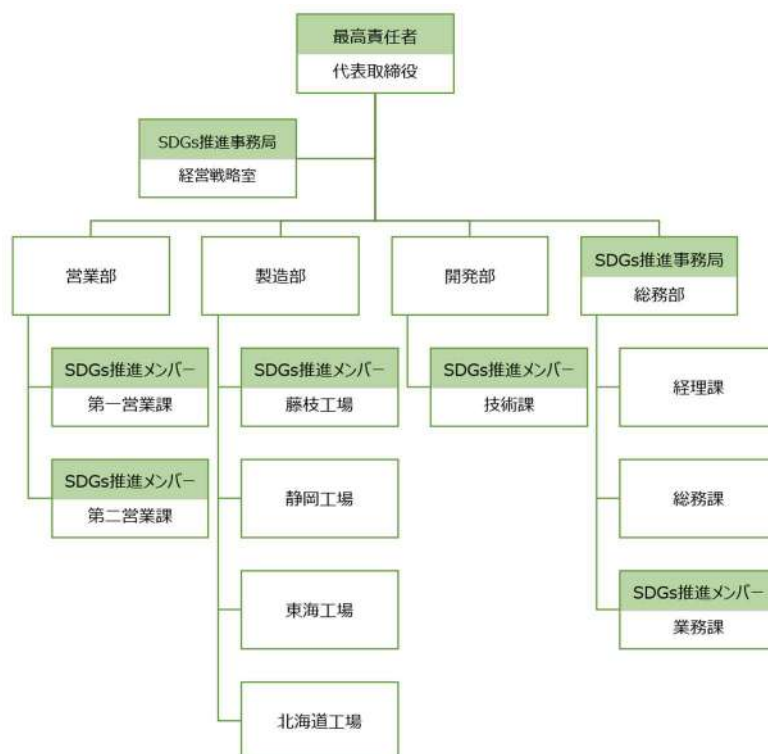
【人権・働きがい】

人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

【地域・社会貢献】

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

2022 年度の体制



● 私たちに関わる気候変動リスク

カナック処理を施す金属製品には、調達から廃棄までに多くの温室効果ガス(CO₂)が排出されています。ここではものづくり大国日本の影の立役者である金型※の製作に焦点を当てております。



鉄の原料の調達において、鉱山採掘が広範囲に行われることが多く、生態系だけでなく、その地域の住民の生活にも影響を及ぼしています。また、鉄の原料である鉄鉱石は100%国外からの輸入に依存しています。製鉄工程では、多くの石炭を用いて高温の炉で鉄鉱石を溶かして作られます。ここで排出されるCO₂は日本のCO₂総排出量の14%を占めます。そして、製鉄工程を経て

出来た鉄は多くの電力使って加工され、金型が完成します。1トンの金型を加工するのに必要な電力は、一般家庭10年分の電力に相当します。



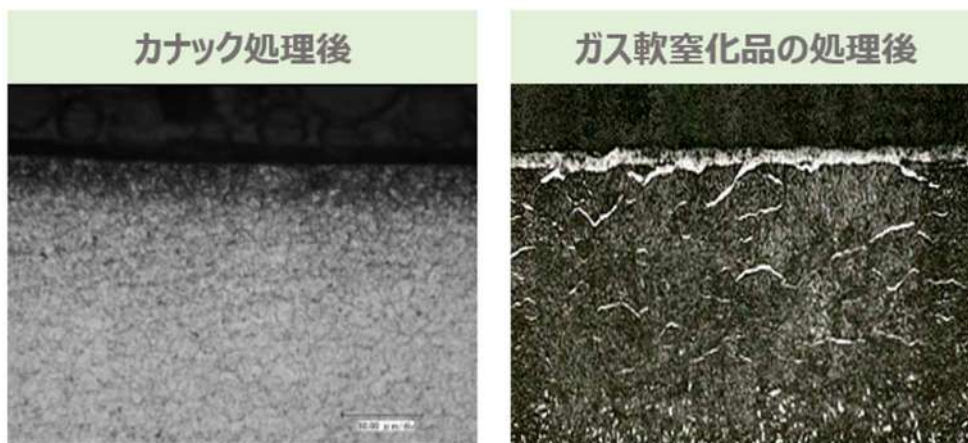
※金型とは？

金属で製作された型枠のことで、金型に金属や樹脂を流し込むことで製品の大量生産が可能になります。

●カナツクの化学技術で日本のものづくりに貢献

弊社の表面処理は、金属に含まれるクロム(Cr)と窒素を反応させる独自のガス窒化技術です。表面に膜をのせるメッキやコーティングとは異なり、金属内部に浸透させ硬化します。これにより、金属の寿命を延ばす「Long Life を可能とする」処理です。

■ 処理後の金属組織比較(SKD61)

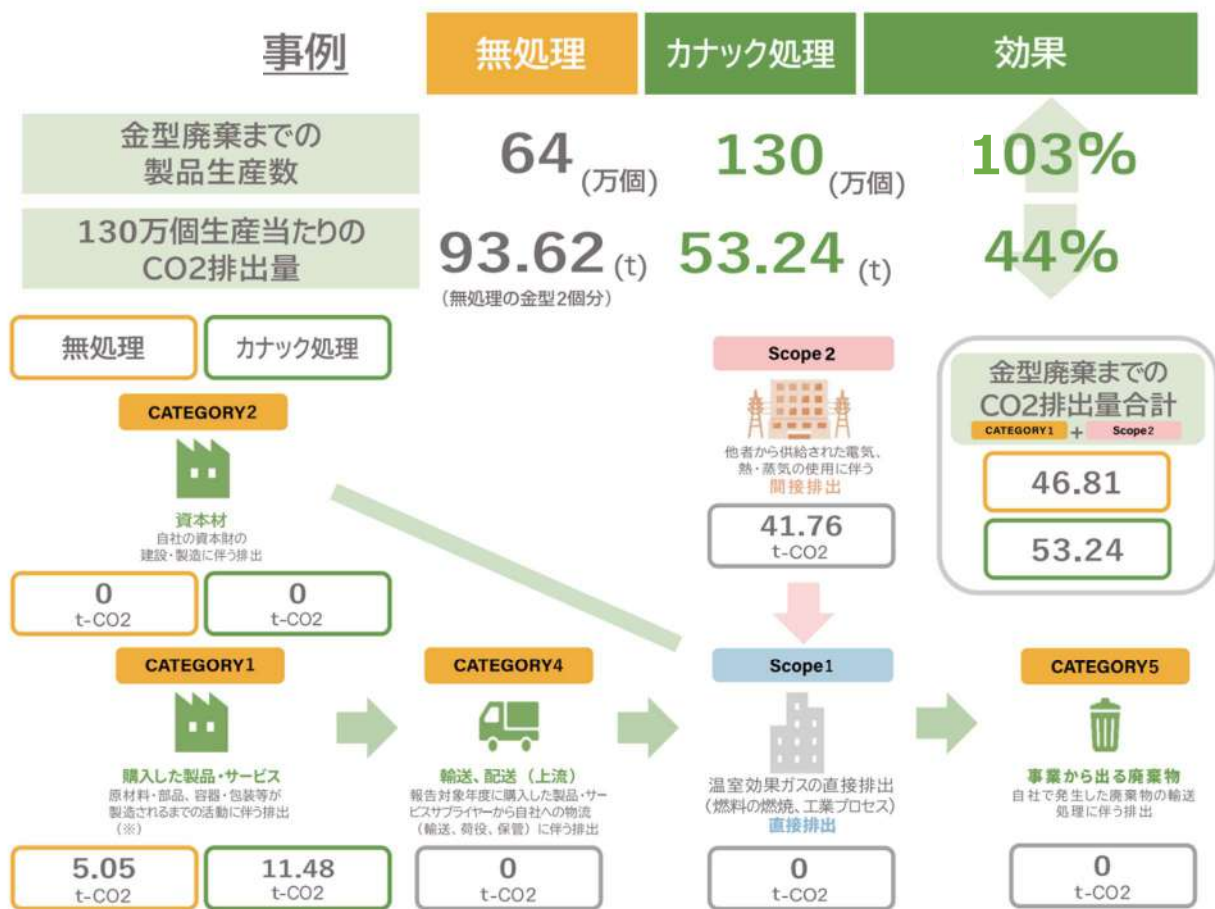


弊社処理の特徴は一般的な鉄(Fe)と反応させる窒化とは異なり、クロム(Cr)と反応させることで「白層」や「カモメマーク」と呼ばれる析出炭化物を作りません。そのため、表面は綺麗な仕上がりで、溶接後に繰り返しカナツク処理をすることも可能です。窒化処理の分野では500℃近辺と比較的低い温度帯で加熱しますので、寸法変化も最小限に抑えられます。また、ガス雰囲気炉で処理することで、例えば注射針のような細い内径部や凸凹のある複雑形状も硬化可能です。

これらの特徴からカナツク処理が適応する製造業の分野は金型だけではなく、輸送用機械関連や搬送用のチェーン、半導体の電子部品関連等、様々な分野で用いられております。

事務用機器製造会社様にご協力いたたき、無処理とカナック処理で 2.2トンの金型が廃棄までにかかる CO₂排出量を算出いたしました。

無処理の金型では廃棄まで 64 万個の製品生産数でしたが、カナック処理を施すことにより金型の寿命が向上し、130 万個の製品を生産することが可能となりました。無処理の金型で 130 万個の製品を生産するとなると、2つの金型が必要となります。カナック処理を施すことで、必要な金型は1つになり、結果として製品生産数は103%に増加、CO₂排出量は 44%も削減することができました。



※「鉄」原単位：WorldAutoSteel（世界鉄鋼協会の自動車文庫会）公表データ使用

「サプライチェーン 排出量 詳細資料」（環境省）(https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate_tool.html#no11) を加工して作成

●温室効果ガス削減実施に向け SBT(Science Based Targets)認定取得

地球環境の保全は、事業運営上必要不可欠な経営課題の一つとして認識しており、パリ協定が求める水準と整合した、温室効果ガス排出削減目標を設定いたしました。

持続可能な社会に向け、社内外での取り組みを進めて参ります。



目標水準: WELL-Below 2°C

基準年:2020年

目標年:2030年

概要:Scope1とScope2の排出を基準年の25%削減、Scope3の排出量を測定し削減

●減らすためのロードマップ

| | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
|---------------|--|---|--|--|
| 知る | <ul style="list-style-type: none"> 3月：Kanuc 2020年度CO2排出量独自測定 ※経産省「排出量単位データベース（Ver.3.1）」 7月：SBT認定取得  | <ul style="list-style-type: none"> 2月：アスエネ株式会社様契約 ※CO2算定をSBT基準で全社算出  8月：CO2算定を各工場毎算出 | <ul style="list-style-type: none"> 4月：CO2算定を各工程で算出 8月：CO2排出量（1次データの提供） ※見積書にCO2排出量予測を記載 ※納品書にCO2排出量を記載 | |
| 減らす | <ul style="list-style-type: none"> 3月：社内SDGs推進チーム立上げ 6月：第1期社内SDGs推進チーム立上げ | <ul style="list-style-type: none"> 6月：第2期社内SDGs推進チーム立上げ | <ul style="list-style-type: none"> 6月：第3期社内SDGs推進チーム立上げ予定 | |
| 作る | | | <ul style="list-style-type: none"> 4月：太陽光発電システム設置検討 | <ul style="list-style-type: none"> 4月：太陽光発電システム設置 |
| 選ぶ | | | <ul style="list-style-type: none"> 4月：グリーン電力契約 | |
| 融通する (その他) | | <ul style="list-style-type: none"> 3月：静岡県SDGs BUSINESS AWARD受賞 ※優秀賞受賞  | | |

地球温暖化の原因である温室効果ガスによる地球環境の悪化は、もはや待ったなしの状態です。カナックは、2050年までにカーボンニュートラルを達成するため、企業全体での取り組みを進めています。大きな流れとして、『知る』、『減らす』、『作る』、『選ぶ』、『融通する(その他)』を掲げております。

① 知る

カナック全体でどのくらいCO₂を排出しているのか。また、弊社処理を施すことで発生するCO₂排出量はどのくらいなのかを測定し、お客様には1次データとして提供する

② 減らす

事業から発生する廃棄物の分別とリサイクルに取り組むと同時に、廃棄物の削減に向けて小規模な取り組みを継続的に推進してまいります。さらに製品の配達および引取りにおいては、エコドライブを心掛けつつ、今後は環境に配慮した車両の導入についても検討しています。

③ 作る

再生可能エネルギーの導入を通じて、間接的なCO₂排出の削減に取り組むとともに、エネルギーの効率化にも力を入れ、省エネルギー化しています(既に営業所・工場の照明をLED化済みです)。

④ 選ぶ

購買に際して、リサイクルに取り組んでいる製品を選択することや、グリーン電力の導入を検討します。

⑤ 融通する(その他)

静岡県が主催するSDGsビジネスアワードにエントリーし、採択され、最終的に優秀賞を受賞しました。このアワードを通じて、藤枝市役所環境政策課の皆様や焼津特別支援学校の皆様など、さまざまな地域の方々とお会いする機会を得ることができました。さらに、このビジネスアワードを通じて、「持続可能な社会を実現する」という共通の志を持つ多くの仲間を繋がることができました。今後も、協力のネットワークを広げるため積極的に活動していきます。

●温室効果ガス(CO₂) 排出量報告

「自社の CO₂ 排出量はどのくらいなのか」。カナツクの CO₂ 排出量開示にあたって、信憑性を担保することが重要であると考えます。

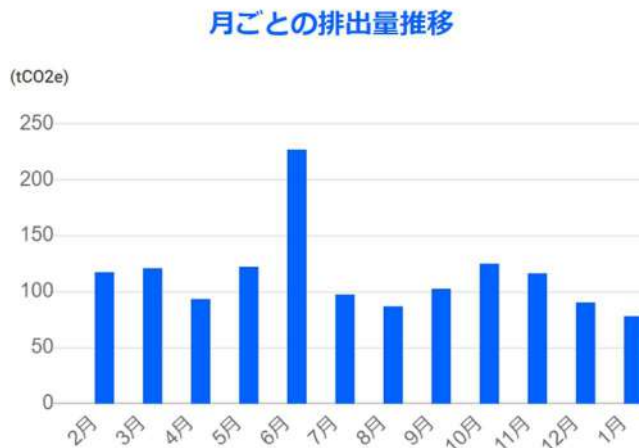
カナツクは、「次世代によりよい世界」をビジョンに掲げ、グローバルにサステナビリティ経営を支援するアスエネ株式会社様の提供するクラウドサービス「アスエネ」を使用しております。「アスエネ」は、国際規格 ISO14064-3 に準拠した信頼性のある CO₂ 排出量算定が可能です。又、毎月 CO₂ 排出量を減らしていくためにはどうしたらよいかを話し合い、目標達成に向けてサポートもいただいております。



自社の CO₂ 排出量削減に加え、今後は 2024 年からはじまるサプライチェーンの一次データの取得・回収を要請する日本政府の方針にこたえうるよう、弊社処理をほどこした場合の CO₂ 排出量のデータ提供に向けて社内では対応を進めております。

社内では、月ごとの排出量を社内掲示板にて発信しております。





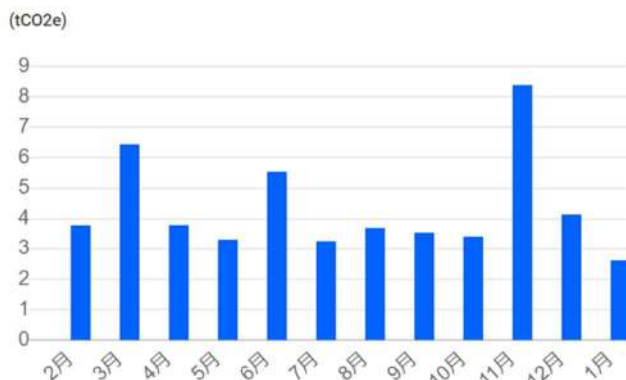
| スコープ | カテゴリー | CO ₂ e排出量 (tCO ₂ e) | 割合 |
|----------|--------------|---|-------|
| スコープ1 | 直接排出 | 58.2 | 4.22% |
| スコープ2 | 間接排出 | 410 | 29.8% |
| スコープ3 | | 910 | 66% |
| その他の間接排出 | 1 購入 | 541 | 59.4% |
| | 2 資本財 | 131 | 14.4% |
| | 3 その他燃料 | 61.7 | 6.77% |
| | 4 輸送（上流） | 70.2 | 7.72% |
| | 5 事業廃棄物 | 14.3 | 1.57% |
| | 6 従業員の出張 | 19.7 | 2.16% |
| | 7 従業員の通勤 | 72.2 | 7.93% |
| | 8 リース資産（上流） | - | - |
| | 9 輸送（下流） | - | - |
| | 10 商品の加工 | - | - |
| | 11 商品の使用 | - | - |
| | 12 商品の廃棄 | - | - |
| | 13 リース資産（下流） | - | - |
| | 14 フランチャイズ | - | - |
| | 15 投資 | - | - |
| | 16 その他 | - | - |
| 合計 | | 1,379 | - |

総排出量



● 3 その他の間接排出

月ごとの排出量推移



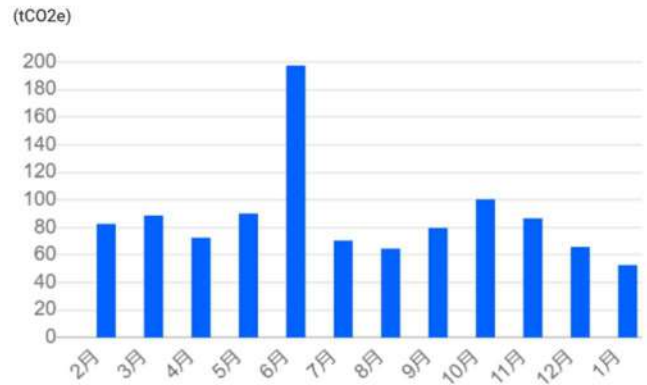
| スコープ | カテゴリー | CO ₂ e排出量 (tCO ₂ e) | 割合 |
|----------|--------------|---|-------|
| スコープ1 | 直接排出 | 0 | - |
| スコープ2 | 間接排出 | 0 | - |
| スコープ3 | | 51.9 | 100% |
| その他の間接排出 | 1 購入 | 17.1 | 33% |
| | 2 資本財 | 3.91 | 7.52% |
| | 3 その他燃料 | - | - |
| | 4 輸送（上流） | - | - |
| | 5 事業廃棄物 | - | - |
| | 6 従業員の出張 | 8.66 | 16.7% |
| | 7 従業員の通勤 | 22.2 | 42.8% |
| | 8 リース資産（上流） | - | - |
| | 9 輸送（下流） | - | - |
| | 10 商品の加工 | - | - |
| | 11 商品の使用 | - | - |
| | 12 商品の廃棄 | - | - |
| | 13 リース資産（下流） | - | - |
| | 14 フランチャイズ | - | - |
| | 15 投資 | - | - |
| | 16 その他 | - | - |
| 合計 | | 51.9 | - |

※Scope1、Scope2、Scope3 の CATEGORY3,4,5 においては、藤枝工場含む

総排出量

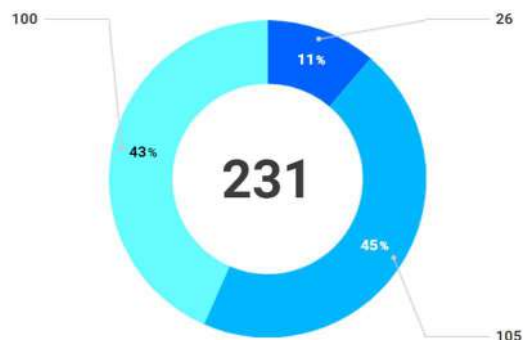


月ごとの排出量推移



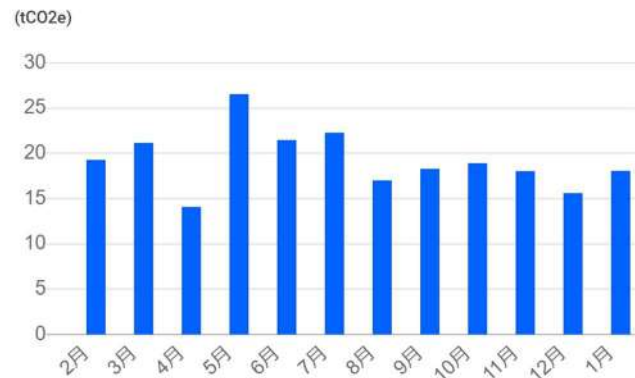
| スコープ | カテゴリー | CO ₂ e排出量 (tCO ₂ e) | 割合 |
|----------|--------------|---|-------|
| スコープ1 | 直接排出 | 21.2 | 2.02% |
| スコープ2 | 間接排出 | 287 | 27.3% |
| スコープ3 | | 743 | 70.7% |
| その他の間接排出 | 1 購入 | 471 | 63.4% |
| | 2 資本財 | 122 | 16.4% |
| | 3 その他燃料 | 34.8 | 4.69% |
| | 4 輸送（上流） | 65 | 8.75% |
| | 5 事業廃棄物 | 13.7 | 1.85% |
| | 6 従業員の出張 | 3.6 | 0.48% |
| | 7 従業員の通勤 | 33.1 | 4.46% |
| | 8 リース資産（上流） | - | - |
| | 9 輸送（下流） | - | - |
| | 10 商品の加工 | - | - |
| | 11 商品の使用 | - | - |
| | 12 商品の廃棄 | - | - |
| | 13 リース資産（下流） | - | - |
| | 14 フランチャイズ | - | - |
| | 15 投資 | - | - |
| | 16 その他 | - | - |
| 合計 | | 1,051 | - |

総排出量



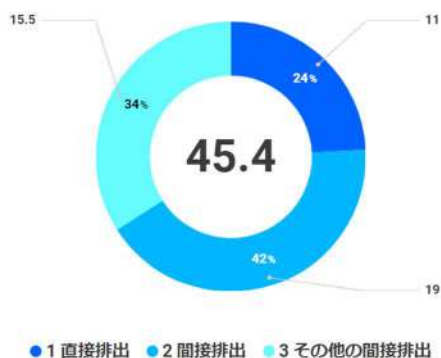
● 1 直接排出 ● 2 間接排出 ● 3 その他の間接排出

月ごとの排出量推移

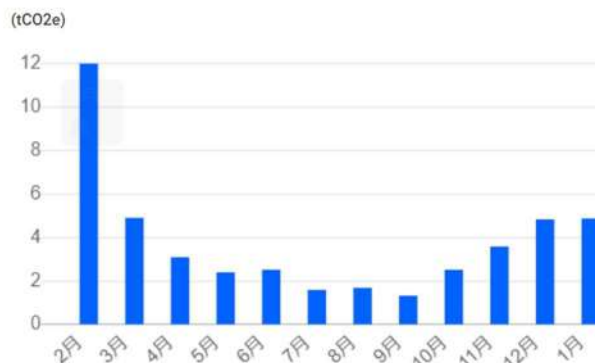


| スコープ | カテゴリー | CO ₂ e排出量 (tCO ₂ e) | 割合 |
|-----------|--------------|---|-------|
| スコープ1 | 直接排出 | 26 | 11.3% |
| スコープ2 | 間接排出 | 105 | 45.3% |
| スコープ3 | | 100 | 43.4% |
| その他の間接排出 | 1 購入 | 50.2 | 50.1% |
| | 2 資本財 | 4.94 | 4.93% |
| | 3 その他燃料 | 22.8 | 22.7% |
| | 4 輸送（上流） | 5.14 | 5.12% |
| | 5 事業廃棄物 | 0.338 | 0.34% |
| | 6 従業員の出張 | - | - |
| | 7 従業員の通勤 | 16.9 | 16.8% |
| | 8 リース資産（上流） | - | - |
| | 9 輸送（下流） | - | - |
| | 10 商品の加工 | - | - |
| | 11 商品の使用 | - | - |
| | 12 商品の廃棄 | - | - |
| | 13 リース資産（下流） | - | - |
| | 14 フランチャイズ | - | - |
| | 15 投資 | - | - |
| | 16 その他 | - | - |
| 合計 | | 231 | - |

総排出量



月ごとの排出量推移



| スコープ | カテゴリー | CO ₂ e排出量 (tCO ₂ e) | 割合 |
|-----------|---------------|---|----------|
| スコープ1 | 直接排出 | 11 | 24.2% |
| スコープ2 | 間接排出 | 19 | 41.8% |
| スコープ3 | | 15.5 | 34.1% |
| その他の間接排出 | 1 購入 | 2.73 | 17.6% |
| | 2 資本財 | 0.872 | 5.64% |
| | 3 その他燃料 | 4.08 | 26.4% |
| | 4 輸送 (上流) | 0.125 | 0.81% |
| | 5 事業廃棄物 | 0.249 | 1.61% |
| | 6 従業員の出張 | 7.42 | 48% |
| | 7 従業員の通勤 | - | - |
| | 8 リース資産 (上流) | - | - |
| | 9 輸送 (下流) | - | - |
| | 10 商品の加工 | - | - |
| | 11 商品の使用 | - | - |
| | 12 商品の廃棄 | - | - |
| | 13 リース資産 (下流) | - | - |
| | 14 フランチャイズ | - | - |
| | 15 投資 | - | - |
| | 16 その他 | - | - |
| 合計 | | 45.4 | - |

●第一期 SDGs 活動報告

2022年3月にSDGs推進事務局を開設、同年6月には各部署から選任されたSDGs推進メンバーを中心に、持続可能な社会の実現に向けて共に学び、各部署で環境負荷低減に向けた取り組みを進めて参りました。

第一期活動期間:2022年6月~2023年5月

【第一回】2022.6.3開催 Kick off ミーティング

テーマ「SDGsを理解し、強いSDGsチーム形成の準備をする」

Agenda

1. 本日の目的と目標
2. 自己紹介
3. チームビルディング ※アイスブレイク
4. SDGsとは?
5. カナックとSDGsの関係
6. 今後の取り組みに関して ~私たちの目標~
7. 最後に

“SDGsとはなんなのか”をユニセフの動画と一緒に見て学び、その後はSDGsの17のGOALに基づいたクイズを実施し、SDGsで知っているGOALと知らないGOALがあることを認識して頂きました。また、カナックとSDGsの関係をメンバー全員で考えてみました。カナックにおける技術開発から製造まで(バリューチェーン)において、SDGsの目標である17のゴールと169のターゲットが私たちのお仕事とどのように結びつくのか、私たちに出来ることはなにかを考えました。



【第二回】2022.7.1 開催 SDGs ミーティング

テーマ「自分を知り、リーダーシップを育む」

Agenda

1. 目的と目標
2. 組織開発 Work
3. ka·chi·ka·n Work
4. 目標シート作成

各部署のリーダーとして、一人ひとりの Mind(志、価値観)を可視化、言語化していくことで、自分自身を知ること、他者を認めることにより Action(行動)の質と量に変化させていくことを狙いとしています。

今回は、それぞれが大切にしている価値観5つを導き出していくワークを実施しました。話し手と聴き手に別れ、話し手は選定した理由や背景を回答し、聴き手は理由や背景を聴き、全員に共有しました。

最後に、第一回で学んだ「社会にはどのような課題があり、SDGs ではどのような取り組みを期待されているのか」を加味しながら、自身の業務と重ね合わせ、一人ひとりの目標シートを作成する時間を設けました。



【第三回】2022.8.5 開催 SDGs ミーティング

テーマ「藤枝市の方向性と私たちへの期待値を知る、各自目標シート作成」

Agenda

1. 藤枝市の方向性と私たちへの期待値
2. 目的と目標
3. 発信・共有の時間
4. 目標シート作成

藤枝市の SDGs 推進担当をしております企画政策課、カーボンニュートラル(CN)を推進しております環境政策課のご担当者様に本社までお越しいただき、「SDGs とはなんなのか?」「なぜ CN が必要なのか?」を世界の動向や、藤枝市としての具体的な取り組み内容を分かりやすくご紹介いただきました。

お話を伺い、やはりカナツクだけで取り組む SDGs やカーボンニュートラル(CN)には限界があり(知識のインプット含め)、様々な方々と助け合いながら進めて行く必要があると感じました。その為には、私たちの取り組みを知ってもらうこと、そして様々な方々の取り組みを知る努力が必要だと認識しました。

後半は、第二回の続きとなる各自の目標シートを記入していただきました。事務局からのお願いとして弊社の CO₂ 排出量削減目標を達成する為に、それぞれの部署で取り組める目標を1つ掲げてもらいました。



【第四回】2022.9.2 開催 SDGs ミーティング

テーマ「それぞれの目標を達成する為にはどうすればいいか」

Agenda

1. 目的と目標
2. アイスブレイク:ワールドカフェ形式での対話
3. Gallery Walk Activity
4. 目標シートを修正
5. ワールドカフェの手法で対話

今回からは研修形式の情報をインプットする場ではなく、SDGs ミーティングに参加するメンバーが主役となり、対話(インプットとアウトプットを繰り返す)していくことでご自身の今後の方向性を明確にし、新しい気づきを得ていく場になるような内容としました。

まず、ワールドカフェという手法をとり「成長とは何か」について話して頂きました。

次に、各自が作成した目標シートを持ち寄り、自身の目標や所属部署の目標のみならず、チームのメンバーの目標にどのように関わり、お互いの成功を分かち合うためには何ができるかを対話しました。



【第五回】2022.10.14 開催 SDGs ミーティング

テーマ「それぞれの目標の進捗共有し、目標達成のために取り組みをブラッシュアップする」

Agenda

1. 目的と目標
2. 進捗共有
3. 相談 Time

今回は、各自が作成した目標シートに基づき、進捗共有をしていただきました。

取り組みを進める上での成果、結果、問題、創意工夫した点、取り組み前後の変化やどのようにして部署の従業員を巻き込んだか等を共有しました。

それぞれの持ち時間は 7 分と短い時間でしたが、発表時間を超過するほどの想いを伝えてくれました。



【第六回】2022.11.14 開催 SDGs ミーティング

テーマ「私たちの SDGs 宣言にする」

Agenda

1. 目的と目標
2. SDGs 宣言指針の策定

カナツらしい SDGs 宣言に向け、取り組みをまとめる時間です。「サービスチーム」「環境チーム」「働きがいチーム」の3チームに別け、チームごとにテーブルホスト(リーダー)を決め、各分野での指針に関して対話して頂きました。ここでは、合意形成を狙いとしていないことを前提とし、カナツらしい社風や文化に沿うよう、言葉を紡いでもらいました。

話し合いの結果、持続可能な社会に向けてカナツらしい目標を4つの柱とし「サービス」「環境」「人権・はたらきがい」「地域・社会貢献」それぞれ社内で何が出来るかを決定し、実施します。



【第七回】2023.2.20 開催 SDGs ミーティング

テーマ「成果や結果を共有し、次の成果や結果をより大きなものにする」

Agenda

1. 目的と目標
2. 進捗共有
3. Thinking Time

まず、皆さん自身で目標設定頂き取り組んでいる内容の共有をいただきました。

SDGs メンバーとして各部署でリーダーシップを発揮している皆さん、そして各部署内ではサポート頂いている皆さんがいることで少しずつカナツらしい持続可能な社会実現に向けて歩いていけたらと思います。

後半は、地球環境について考える日として提案された「Earth day(地球の日)」に向けて、皆さんと一緒に Earth Day(地球の日)に取り組むアクションプランを議題(ディスカッション内容)に組み込ませて頂きました。ディスカッション内容は「カナツらしい Earth Day(地球の日)の取り組みとは？」とし、SDGs メンバーの皆さんにワールドカフェの手法で話し合いをしました。



【第八回】2023.4.17 開催 SDGs ミーティング

テーマ「SDGs 第2期メンバーに想いを継承する」

Agenda

1. 目的と目標
2. Earth Day(地球の日)の取り組み
3. Discussion
4. Personal Work

前回のミーティングで話し合っただいた Earth Day(地球の日)の取り組みについて、「できることを少しずつ、少し前に」をテーマに、社員全員が気軽に参加できるアクションプランを選定した。

SDGs 第一期メンバーミーティング全八回を通じて、「出来たこと」「出来なかったこと」「やれたこと」「やりたかったこと」を振り返っていただきました。

【Earth Day(地球の日)実施内容】

| | ハンカチ運動 | 水筒 (マグカップ) 運動 | お弁当運動 |
|-------------|---|---|---|
| When (いつ) | 4/24-4/28 | | |
| Where (どこで) | 各社内 | | |
| What (何を) | ハンカチを持参する | 水筒 (マグカップ) を持参する | お弁当を持参する |
| Why (なぜ) | ペーパータオルの削減 | ペーパーカップ (プラスチックカップ) の削減 | プラスチックゴミの削減 |
| HOW (どのように) | お手洗い、洗面台使用後はハンカチで手を拭く | 水分補給時にゴミが出ないように、水筒やマグカップを持参する | 昼食時にゴミが出ないように、お弁当を持参する (地産地消で食べ物を作る、選んでみる!) |
| SDGs GOAL |  |  |  |







株式会社カナック SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2023年2月1日

株式会社カナック

代表取締役社長 堀越弘也

SDGs達成に向けた当社の約束と取組

私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ、製造業に関わる全ての人や地域と、活力ある未来を探求し続けます。

サービス

私たちは、カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

<主な取り組み>

- ・常にカナック処理の基礎データを更新することにより、サービスの研鑽に努めます。
- ・製品品質をより高める為に、お客様からのご要望を真摯に受け止め、最善の方法を考え提供します。



環境

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内でのCO2排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

<主な取り組み>

- ・2030年度までにCO2排出量をSBTiに整合した25%削減を目指します。（※2020年度対比）
 - >SCOPE1、2でのCO2排出量を全社員に毎月共有
 - >環境報告書の作成と報告を毎年3月に実施
- ・産業廃棄物の削減
 - >可燃ごみと廃プラ（再生可能プラスチック）の分別
 - >コピー用紙の使用数削減



人権・働きがい

カナックは人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

<主な取り組み>

- ・有給休暇取得の推進
 - >有給休暇取得率50%/年
- ・従業員満足度(Engagement Score)の定期計測とアクションプランの策定と実施
 - >厚労省平均3.42
- ・製造工場内の安全推進活動の実施
 - >現場作業員からの改善要望80%対応



地域・社会貢献

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

<主な取り組み>

- ・職場体験の実施、地元出身者の積極的な採用
- ・藤枝市環境保全協議会への積極的な参画



MEMO :

Kanuc